

大倉の神楽 地区に伝わる伝統の神楽

歴史の散歩道

参考 飯館村史第3巻「民俗」

「神楽」は「神座(かむくら)」から転じたとする説が有力で、神を迎える神事が、後世において芸能化したものと言われます。村では8地域で「獅子神楽」の伝承が確認されています。その多くが中通り地方から伝わったものと考えられています。約500年前から大倉地区に存在するという説もあります。かつて「大倉の神楽」は、小正月の「村まわり」と、祭礼で奉納されていました。山津見神社と岩井山福善寺、区長の家を回り、その後3日間にわたって地区の

全戸を巡りました。神楽は「剣舞」や「田植踊り」の前に舞われました。一方、4月に行われる山津見神社の神事「お浜下り」では、お旅所にて略式で舞い、翌日、神輿が浜から帰った際には、社の前で奉納しました。また、地区の愛宕神社の祭礼でも奉納されていました。その後、震災による全村避難中の平成25年には、大倉伝統芸能保存会が、相馬大野台仮設住宅の春祭り、中断から復活させた地区の田植え踊りと共に「大倉の神楽」を披露し、故郷の人々を勇気づけました。現在は、夏の「はやま湖まつり」をはじめ、村や地区の行事でも披露され、保存会では次世代への継承にも取り組んでいます。



令和4年の「はやま湖花火大会」のオープニング。夕暮れの湖畔にて、「太刀のみ」のシーン。



震災による全村避難中の平成25年、相馬大野台仮設住宅で披露された「大倉の神楽」。

東日本大震災の被災地復興支援を...という事で東京から福島に来た著者。移住してきた立場から見た福島での生活についてちよつとのぞいてみてみませんか。

第26回読書メッセージコンテスト
8月10日から読書メッセージコンテストの作品を募集します。1日1ページでも5分でも、読書の時間を作ってみてください。読書は心を豊かにしてくれますよ。



中川雅美 / 東京図書出版

自分らしく老後を過ごしていくためのヒントが書かれている1冊。楽しく、幸せに過ごしていくためにこの本を読んで学びましょう。

『リクエスト図書』購入しました
財産断捨離のすすめ
ボケを遅らせ、争族を防ぐお金の使い方

和田秀樹 / 白秋社



和田秀樹 / 白秋社

ふれ愛館だより 交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

いいたて なりわい REPORT vol.13

村の工場は大切な拠点。仲間を信じ、技術を磨いて、挑戦を続けていこう
株式会社菊池製作所 福島工場



草野地区に7棟の工場を構える株式会社菊池製作所(本社・東京都八王子市)。齋藤政宏製造本部長(前田)は、この福島工場を拠点に、県内の各工場を管轄しています。「令和5年に開所します。『おおよそ』研究所(福島市)で研究を、福島工場(飯館村)と川内工場でものづくりを、南相馬工場を組み立てから出荷まで行う、縦のラインができています」。



最新の工場で、約120人が勤務します。



にぎわう食堂。定食・丼物・麺類を選べます。

ギニアの製作を専門業者から受注するなど、新規事業への挑戦も継続しています。「試行錯誤の勉強は面白いです」と齋藤さん。「ものづくりは簡単にはいかないところが楽しいのです」。創業者でもある菊池功社長は飯館村の出身。「震災時も、村の工場を何として残すよう、社長の指示がありました。ここは何より大切な拠点なのです」。村内の工場は特例により全村避難の期間も操業を続けましたが、もちろん容易なことではありませんでした。「皆がいたからこそまで来られたと思っています」。

震災後はベンチャー企業への投資にも力を入れていきます。「一緒に成長したいという社長の考え。国内でそれができる会社は希少だと思っています」。また、社員の交流を通して社内文化を継承すると同時に健康面も大切にしたいと社員食堂を新設。社員に思いをかける会社でもあります。「ここで働く人は素直な人が多い。技術を身に付ける上でも人間性は大切。失敗を恐れず議論や挑戦ができる社風に感謝をしながら、仲間を信じ、技術を磨いて、将来にわたって存続できるように楽しく仕事をしたいです」。



菊池製作所 福島工場
飯館村草野字向押25-1
☎0244-42-0913

おしゃべりをしながらソフトクリームを作ってくれる愛らしいロボット。ベンチャー企業との共同開発。この夏各所で活躍しました。

